

平成 26 年度 KEK 技術職員シンポジウム参加報告

三重大学工学部工学研究科技術部

○中川浩希 、梅田直明 、中村昇二

nakagawa@mach.mie-u.ac.jp

1. はじめに

平成 27 年 1 月 14 日から 15 日の 2 日間、高エネルギー加速器研究機構（茨城県つくば市）で、平成 26 年度 KEK 技術職員シンポジウムが開催され、技術部から 3 名が参加したのでその概要を報告する。

本シンポジウムは、国立大学・国立高等専門学校・大学共同利用機関等の技術職員の技術の向上と活性化を目的に開催されており今回で 15 回目となる。また、今年度の開催テーマとして「法人化 10 年と今後」が掲げられ、法人化により、技術職員の組織、業務内容、人事評価や処遇などがどのように移り変わり、その結果として今何が問題となっているのか。そして次の 10 年、技術職員はどのように対応していくべきなのか。について全国技術職員の連携を図り、活発で建設的な議論をする場となっている。

今回の、参加学校・機関は全国から 33 機関で、参加人数は 111 名であった。またその中から 11 題の発表と意見交換が行われた。

2. 各機関の発表と意見交換について

各機関の発表の前に、KEK 技術賞講演が行われ、その後、大学、高専、大学共同利用機関の発表と意見交換が行われた。そこで、各機関の発表概要と特徴的な内容と思われるものについて以下に報告する。

KEK 技術賞とは「(1)技術への取り組みが創造的である。(2)技術の具体化への貢献、成果が顕著である。(3)KEK の推進する研究計画への技術貢献が顕著である。(4)技術伝承への努力が積み重ねられている。」の 4 項目の基準で高評価を得た技術者に対して与えられるものであり、平成 26 年度は 3 名の KEK 技術職員が受賞しその講演が行われた。

○電気通信大学

電気通信大学では、2007 年度の助手制度改革（助手を廃止しすべての助手を助教とした）から、助教が実験実習教育を担うことが困難となったため、すべての教室系技術職員を教育研究技師の職に移行し、授業の運営委員、実験テーマの企画・準備・指導・レポート評価（補助評価者）を担う職となり、身分を教員組織の一員とし、教育研究技師部を発足したことについて報告があった。

○埼玉大学

埼玉大学は、平成 24 年 4 月の改組により旧技術部から総合技術支援センターを新しく発足し、技術員 41 名、再雇用 5 名で種々の活動を行っている。改組後の組織は、センター長、総括技術長以下、機械建設系、電気電子情報系、物資・生命科学系の 3 つの系により構成され、以前のより細分化されていた技術部時代に比べ横方向の連携が密となり、業務の柔軟化・迅速化が期待される体制となってきている。また、身分は一般職であるが、教員給与表と同一の技術職俸給表が新設されたことについて報告があった。そしてセンターニュースを紙ベースで配布し、広報活動を行っていることについて説明された。

○秋田大学

秋田大学の技術職員は 84 名で、全学的な総合技術部に在職し、国際資源、医学、教育文化、理工の 4 学部それぞれ派遣され、教育研究支援業務に従事している。法人化後機能する総合技術部を目指し、「あり方検討 WG」で検討され、専門室体制から各部局体制へと組織改編を実施したことについて報告

された。また、待遇改善の材料として、キャリアパスの明確化、学外で英会話研修の受講、奨励研究の申請等について報告があった。

○長崎大学

長崎大学からは、工学研究科教育研究支援部の現状について報告があった。第2期中期計画に「技術職員及び教務職員の一元的管理」が掲げられ平成26年4月に文教地区技術部に属することとなり実質化に向けた活動を検討していく段階とのことである。団塊世代の退職にあたり技術継承、高学歴職員の採用におけるキャリアパスの明確化、スキルアップの方法等を課題として抱えている状況と報告された。

○東京大学、東北大学

東京大学や東北大学といった大規模な大学では、全学の教室系技術職員で組織化した総合技術本部（東大）や総合技術部（東北大）が発足し、部局の間で横の連携を重視した組織づくりやマトリックス型組織、全学的な人事管理による適材適所の人員配置、女性の統括技術専門員が女性職員の意見を聞く体制、職員が意欲的に働く事ができるようなキャリア構築を可能とする研修の充実等が報告された。

○大阪大学

大阪大学からは、理学研究科技術部の活動状況について報告があった。技術職員が人事管理や部局に積極的に関わっていくため、法人化後、技術長は技術部の運営や活動に従事し、現在の位置づけは、管理職ではないが事務本部が行う評価者研修を受講し、年2回の個人面談を行い評価に反映していること等、技術部運営に関する内容が発表された。

○沖縄高専

沖縄高専は、昨年、開校10年を迎え技術職員組織も本年度で10年を迎えるところで、10名の技術職員で運営されている。これまで組織運営や業務内容、職員の研修制度、人員構成等の検討が行われ、10年間で組織改革が3回あり、より良い教育研究支援組織でありつづけることが考えられ、検討されている。全員が奨励研究に応募することやPDCAサイクルの導入について報告された。

○国立天文台

大学共同利用機関の国立天文台では、スタッフ制により天文学研究を技術面から支える人事制度について報告された。技術系職員の中でも、一般職である技師系と教育職である研究技師系があり、それぞれの職務、人事、給与、勤務時間、定年について紹介があった。また、優れた技術者を育成するための採用時研修、英語研修の実施について報告され、海外に観測所を持つ天文台ならではの研修体制であった。技術推進室に先任者を配置し、人事、研修の実務を推進し、技術主幹、副技術主幹が海外勤務も含めた全技術系職員70名との個別懇談を行い組織運営していることについて報告があった。

○KEK（高エネルギー加速器研究機構）

KEKでは法人化を機に28年続いた技術部組織の廃止と、部課長制を廃止しライン制からスタッフ制への移行という、現在多くの大学が進めている技術部組織化とは違う発表内容であった。また、先任技師、主任技師、技師といった新職階制と、独自の技術職給与表を作成し導入している。改組時のスローガンとして、自立型プロフェッショナル（より専門的な技術者をめざす）、技術者、技術職が見える位置づけにすることで技術職員のモチベーションを高くしている。

○核融合研

核融合研は、技術職員46名で構成される技術部があり、大型ヘリカル装置（LHD）によるプラズマ閉じ込め研究を技術面から支えている。技術部としての課題と対応（技術部の運営、社会貢献、勤務時間の適正化等）と法人化後の労働安全衛生法に基づく対応（安全衛生管理の組織化、安全衛生関係の各種資格取得、安全衛生巡視等について報告があった。

意見交換会では、各機関が抱えている問題のひとつとして技術職員の新規採用について意見が交わされた。新規採用が高学歴化していることや、新規採用者の内定を公募（書類選考、面接）や統一試験（法人試験）の結果をもとに出すが、他に有利な条件の採用があれば、技術職員の内定を蹴ってそこへ就職するという例が多くあり優秀な人材確保が難しい状況のところが多い。これは給与などの待遇面の改善と、技術職員として誇りを持って働ける職場環境の充実が必要であり、技術職俸給表の設置や、身分を教員組織の一員とすることや大学技術職員のキャリアパスの明確化を行うといった、技術職員の魅力をどのように伝えるかが重要になるとの意見があった。

最後に、機会があれば今後もこのようなシンポジウムへ参加し、全国の技術職員と意見交換を行い、情報収集をして、これからの技術職員について考え、技術の向上と活性化を行っていきたい。

平成 26 年度技術職員シンポジウムプログラム

会場：高エネルギー加速器研究機構 研究本館 小林ホール

1 月 14 日(水曜日) 1 日目		
11:30~13:00		受付
13:00~13:05		挨拶 高エネルギー加速器研究機構 野村 昌治 理事
KEK 技術賞講演 進行:大越隆夫 (KEK)	13:05	KEK 技術賞について 大越隆夫
	13:15~13:40	DAQ-Middleware の高度化と素粒子原子核・物質生命科学分野への普及活動 千代浩司 素粒子原子核研究所
	13:40~14:05	高輝度真空紫外軟 X 線ビームラインの建設・調整法と光学素子の in situ 炭素汚染除去法の開発 豊島章雄 物質構造科学研究所
	14:05~14:30	大強度陽子ビームの高ダイナミックレンジのハロー診断のための OTR / Fluorescence スクリーンを用いた 2 次元ビームプロファイルモニター 橋本義徳 加速器研究施設
14:30~14:50		休憩
状況報告 座長:田中賢一 (KEK)	14:50~15:20	なぜ、技術職員を教育に強く関与する職に移したのか 電気通信大学 教育研究技師部 金子 克己
	15:20~15:50	国立天文台技術系職員の人事制度改革と推進体制 国立天文台 技術推進室 千葉 庫三
15:50~16:00		休憩
状況報告 座長:田中賢一 (KEK)	16:00~16:30	総合技術支援センターの組織と活動状況概要について 埼玉大学 研究機構総合技術支援センター 齊藤 作義
	16:30~17:00	法人化 10 年と今後 (組織について、業務内容の変化、評価と処遇) 高エネルギー加速器研究機構 山野井豊
17:00~17:40 進行:牧村俊助 (KEK)		意見交換会
17:40~18:00		宿舍移動等 20 分
18:00~20:00		懇親会 会場:KEK レストラン
1 月 15 日(木曜日) 2 日目		
状況報告 座長:平 雅文 (KEK)	9:00~9:30	沖縄高専における技術組織 10 年の変遷 沖縄工業高等専門学校 藏屋 英介
	9:30~10:00	秋田大学のこれまでの取り組みについて 秋田大学 国際資源学部技術部 川原谷 浩
10:00~10:10		休憩
状況報告 座長:平 雅文 (KEK)	10:10~10:40	核融合科学研究所技術部における法人化 10 年と今後 核融合科学研究所 技術部 馬場 智澄
	10:40~11:10	技術職員及び教務職員の組織的運用 長崎大学 文教地区技術部 中島 弘道
	11:10~11:40	東京大学総合技術本部設立への経過と現状 東京大学 総合技術本部 高間信行
11:40~13:00		昼休み
状況報告 座長:平 雅文 (KEK)	13:00~13:30	東北大学技術職員組織について 東北大学総合技術部工学研究科 佐藤秀孝
	13:30~14:00	技術部 十年の歩み 大阪大学 理学研究科技術部 古木 良一
14:00~14:10		休憩
14:10~15:00 進行:山岡 広 (KEK)		意見交換会
15:00~		閉会挨拶 田中賢一(実行委員長)